本田宗一郎杯　第 39 回　全国大会

Honda エコマイレッジチャレンジ 2019

2019 Honda eco Mileage Challenge

My Story

これまでの道、これからの道

競技説明

1 リッターのガソリンで何 km 走行できるか？
速さではなくマシンの燃費性能を競う、新しいモータースポーツが「Honda エコマイレッジチャレンジ」です。

大会概要

Honda エコ マイレッジ チャレンジは、1 リッターのガソリンで何 km 走行できるか？ がテーマ。実際の競技では、規定周回数（距離）を決められた時間の中で走行し、燃料消費量から「燃費」を算出して、その燃費性能の高さを競います。各チームは、マシンの設計や形状、走り方など、ありとあらゆる要素の効率化を追求して、燃費性能の極限を目指します。

山脇学園中学校・高等学校、大会参加メンバー。

「Honda エコマイレッジ チャレンジ」に初出場

“ お嬢様学校 ” というイメージもある山脇学園中学校・高等学校だが、そんな概念を覆すような課外活動にも幅広く参加している。

今年 9 月には「本田宗一郎杯 Honda エコマイレッジチャレンジ」に高校 1 年生のチームが出場した。「Honda スーパーカブ」のエンジンを搭載したオリジナル車両で、“1 リッターのガソリンで何 km 走行できるか？ ” をテーマとした大会だ。

高校生の部「グループⅡ」では規定周回数を規定時間内に走行し、燃料消費量から「燃費」を算出。どれだけ少ない燃料で走行できるかを競う。

大会には全国から 137 の高校生チームが参加。山脇学園チームの結果は 6 周で 38 分。規定時間に満たず記録には残らなかったが、初出場ながらも見事完走を果たした。

大会に参加したのは高校 1 年生の 8 人。中学 3 年次に実施される科学研究チャレンジプログラムで同じグループであったメンバーを中心にチームを組んだ。車体の製作には約 2 ヶ月も要したという。

生徒と教師が一体に。かけがえのない貴重な思い出。

リーダーの西山綾音さんは「秋田先生にお誘いしてもらったのが参加へのきっかけです。設計から制作まで先生と私たちで手がけました。機材の組み立てなどは芝高校の先生のアドバイスを受け、芝高校の校舎をお借りして作業しました。想像したよりも難しい工程が多く、油まみれになったりと抵抗感も感じましたが最後の方はそんなことも慣れてしまっ

ていました。この経験を通して本当に成長できたと感じています。大会が終わった今は、また参加したいという気持ちが強いです」と笑顔で語ってくれた。

「私自身もこの大会に参加した経験があり、いつか生徒にもチャレンジしてほしいという思いがありました。ただ私は少しのんびり屋なところがあるので、生徒に色々心配をかけてしまっていたようでしたが…（笑）」（技術・情報科担当　秋田教諭）

大会でドライバーを務めた林真子さんは「正直に話すと、じゃんけんで負けたのでドライバーを担当することになったのです（笑）。自転車のハンドルのような装置で左を握るとアクセル、右を握るとブレーキが作動する仕組みです。本番では他の車とぶつかって事故にならないかと心配でたまりませんでした。大会当日に初めて走行したのですが本当に怖かったです。失敗したらどうしよう、壊しちゃったらどうしよう…というプレッシャーと緊張で押しつぶされそうでした」と話してくれた。

また参加した他のメンバーからも貴重な話を伺うことができた。

「溶接で火花が飛び散る光景をテレビで見たことがありますが、まさか自分がその作業をするとは思ってもいませんでした。大変でしたが終わってみると貴重な経験であったと思います」（中田朱音さん）

「大会で初めて他校の車体を見たのですが、空気抵抗を計算したレベルの高いものも多く驚きました。会場では男子がとにかく多くて自分たちが相当目立ってしまっていましたね。視線をすごく感じました（笑）」（浅田麻衣さん）

「会場は思っていたよりも大きく、さらに人もたくさんいてとても緊張しました。最初思っていたイメージと全然違ったのが驚きです。チェーンの調整に時間がかかり大変でした」（大原和奏さん）

「チームのみんなで頑張れたことが良い経験でした。実際に走行できた時には本当に感動しました。みんなで情報を共有して、工夫しながら作業できたことがいい思い出です」（廣岡佑美さん）

「車体作りを通して自分がものすごく不器用であると感じました。自分のせいで作業が遅れたらどうしようとも思ったりもしましたが、なんとか完成したので安心しました」（小川桜那さん）

「実は最初は軽い気持ちで参加したんです（笑）。火花を散らして作業するのは大変でしたが楽しんで取り組めました。練習走行では最初車が動かなくて焦ったのですが、決勝ではちゃんと走れたので感動して泣いてしまいました。秋田先生にも感謝しています」（塩田恩実さん）

生徒と先生が一体となって取り組んだ大会への挑戦。普段の学校生活では得られない、かけがえのない経験であったに違いないだろう。インタビューでは参加したメンバーの全員がまた大会に挑戦したいと話してくれた。さらなる飛躍に期待したい。

各クラス優勝校

グループⅠ（中学生クラス）

チーム名：芝学園技術工作部 2 号車
【芝中学校・芝高等学校 (東京都)】
記　録：811.856km/l

本年度の優勝で 2 連覇を果たした芝学園技術工作部

グループⅡ（高校生クラス）

チーム名：千葉県立下総高等学校自動車部 A
【千葉県立下総高等学校 (千葉県)】
記　録：2,216.028km/l

表彰式の様子。優勝旗が授与された。

スナップショット

走行前の整備の様子。

ブレーキの点検。

安全な走行を行うための車両点検。